

地域密着型サービス評価の自己評価票

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

取り組んでいきたい項目

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>開設時から理念を掲げており、ホームの玄関やフロアに掲示している。「利用者が主人公」「寄り添う」ということ重視し取り組んでいる。</p>	
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>毎月カンファレンスやミーティングにてケアについての検討を行っている。3月の勉強会では理念について学び職員全員が今年の目標を立て、職員の紹介の掲示板にお披露目し、日々取り組んでいる。</p>	<p>○</p> <p>今後も理念の勉強会を行ったり、カンファレンスでサービスの検討を行いながら、職員全員へ伝えていき、理解してもらい、実践のケアにいかしてもらいたい。</p>
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる</p>	<p>ホームの玄関やフロアに掲示している。ご家族の案で職員紹介の掲示板を作成し、その中にも理念に基づく個々の目標をお披露目することでわかりやすくなったと思う。</p>	<p>○</p> <p>今後ご家族や地域の方むけの勉強会(認知症について、介助方法など)も行っていけたらと思う。</p>
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>現在は町内の方々や近隣の方、同マンションの方とは買い物や散歩の時に顔を合わせるが多くなり、挨拶を交わす等のお付き合いは増えてきた。ホームへ立ち寄ってもらうまでのお付き合いまでには発展していない。</p>	<p>○</p> <p>徐々に町内の催し参加だけでなく、納涼祭など企画し、交流する機会を作っていきたいと思う。</p>
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>運営推進会議には町内の方々が多く集まって下さり、同日の交流会にも参加し入居者・ご家族とも交流していただいている。逆に地域の行事のお誘いもあり、入居者・ご家族とともに楽しませていただいている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>6</p> <p>○事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる</p>	<p>現在は貢献できていない。</p>	<p>○</p>	<p>今後は地域の方にも目を向けていきたい。</p>
<p>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</p>			
<p>7</p> <p>○評価の意義の理解と活用</p> <p>運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる</p>	<p>自己評価、外部評価することで問題点が明確になり、サービスの質向上にむけた目標をたてることができる。昨年の評価を元にできることから改善を試みている。</p>		
<p>8</p> <p>○運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>昨年のご家族と地域の方、代表職員だけで行っていたが、ご家族の案で入居者も職員も全員参加して行っている。意見や相談のでやすい雰囲気を大切にし、ホームのことをよりよく知ってもらう時間として会議で集まる機会を活かしている。</p>		
<p>9</p> <p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>会議以外には市民センター行事に(敬老会等)参加させてもらっている程度。</p>		
<p>10</p> <p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している</p>	<p>研修会には参加している。ご家族より郵便局で本人の通帳からの引き出しが難しくなっていると相談を受け、後見人制度の窓口等を知らせるとともに郵便局への問い合わせを手順を調べ伝える。今後のことあるのでご家族全員(他の兄弟)で話し合ってもらうようお願いする。</p>	<p>○</p>	<p>まだ知識が不十分なので、対応できるよう努力する。</p>
<p>11</p> <p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている</p>	<p>虐待防止・身体拘束防止についての勉強会を開催し、職員全員へ伝える。身体拘束に関しては家族の希望で夜間のみベッド柵を利用している方が3名いらっしゃる。状況等は記録し、会議等で検討している。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている</p>	<p>会議の際や面会時になるべくご家族とお話できるよう心がけている。看取りについては事例がないことからご家族も少し不安があった様子。個別にお話し、ご家族同士でも考える機会をもってもらうようお願いする。契約書等は説明をし、署名・捺印をいただいている。</p>	
13	<p>○運営に関する利用者意見の反映</p> <p>利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>利用者はうまく発することができないこともあるので、配慮を忘れないようにしている。相談員の方が月に2回来られゆくり話し込んで下さるので利用者は喜んでいる。ご家族、地域の方へは会議の時等にアンケートを記入していただき気軽に発してもらいたいと考えている。</p>	<p>○</p> <p>職員が会話の中や利用者の表情等でも要望・苦情と聞き取りができるようにしていきたい。</p>
14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>毎月お便りにてご報告している。1ヶ月の様子を写真入りでお伝えする。近況報告にて担当職員が個別に利用者の1ヶ月の状況やプランの評価、対応策等を記入しお伝えしている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族の意見をもっとプランに反映させたいと思い、近況報告への返信を導入する。返信は定着していないが面会時に職員とご家族とのコミュニケーションは広まってきている。</p>
15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>地域の方が参加しての会議にも大分慣れていただき、質問や意見、提案を発言してもらっている。反映させていく努力もしている。</p>	<p>○</p> <p>今後も発言しやすい雰囲気を大切に意見も多くひろい、ひとつでも多く反映させ質の向上を目指したい。</p>
16	<p>○運営に関する職員意見の反映</p> <p>運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている</p>	<p>月に1度の全体ミーティングで困っていることなどの意見を出してもらうようにしている。(業務改善など)半年に1度は職員一人一人と面談し、意見を聞くとともに努力してほしいことを伝えるようにしている。</p>	
17	<p>○柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>	<p>外出時や体調不良の方がいる時などリスク管理を重視し職員数の調整を行っている。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>18</p> <p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>昨年は職員の離職・異動が多く、利用者・ご家族にも迷惑をかけてしまった。ご家族より「職員の名前も覚えて家族のように接していきたい」と言っただき、新しい職員も早く馴染めるように利用者・ご家族とのコミュニケーションを大切にしている。</p>	○	<p>今後も職員の紹介を密にし、利用者の方が不安にならないよう、新しい職員をフォローしながら信頼関係を築いていきたいと思う。</p>
<p>5. 人材の育成と支援</p>			
<p>19</p> <p>○人権の尊重</p> <p>法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している</p>	<p>現在男性2名、女性12名だが特に対象条件はない。半年のペースで個人面談し、不安・不満の解消をしてもらい、目標を持って業務にあたってもらうよう話している。利用者をはじめ、職員にも思いやりをもってチームワークが築いていけることが目標。</p>		
<p>20</p> <p>○人権教育・啓発活動</p> <p>法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる</p>	<p>サービス内容・接遇等研修を行ったり、全体ミーティングやカンファレンスでは細かい対応について討議している。</p>		
<p>21</p> <p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>2ヶ月に1度、全職員参加の勉強会の時間を設けている。職員の人数も確保できるようになって来たので、外部の勉強会や研修等にも参加し始めた。</p>		
<p>22</p> <p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>グループホーム協議会の参加、勉強会への参加等行っており、同業者の工夫や活動の情報を得ている。</p>	○	<p>勉強会へいく職員が限定されているため、多くの人に参加できる機会を作っていきたいと思う。</p>
<p>23</p> <p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	<p>会議等で業務改善等の案を聴取しているが、なかなかでてこないで、半年に一回は個々の職員と個別に面談し困っていることや意見をゆっくり話せるように努力している。</p>		

項目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
24	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	<p>面談の時に評価し、個々にあわせた目標等を話し合うようにしている。</p>	○	<p>経験を活かし、新人教育や業務改善等にも関わってもらいたいと思う。</p>
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>				
<b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b>				
25	<p>○初期に築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>初期は担当者が、細かく情報収集をし、他の職員に伝える。担当者から徐々に顔見知りの関係を作っている。不安等の表情やサインを見逃さず、対応できるよう努力している。</p>		
26	<p>○初期に築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>	<p>見学に来られたときや電話等でも相談に応じれる状態にしている。施設や病院からの場合はカンファレンス等にも参加している。</p>		
27	<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>初期の介護計画は特にご家族の話(やサマリー)から情報を集め、判断している。短めの期間で評価して検討を重ねている。現在は他のサービスは利用していない。</p>		
28	<p>○馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>見学は随時受け付けており、ホームの雰囲気を味わってもらえるようにしている。</p>		
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>				
29	<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>生活の動作、家事等の中でも、出来ることを探し、一緒に行うことで、出来ことを一緒に喜ぶことを大切にしている。最近では男性も家事を手伝って下さるなどの光景もみえてきている。ご家族も今まで見たことがないと驚かれる。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
30 ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	ご家族との外出・外泊も少しずつ多くなっている。ホームでの生活ベースを伝え、ご家族と一緒に過ごせる支援にも力を入れていきたいと思う。		
31 ○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	体調の悪化やご家族のことを忘れてしまい、肩を落とされる家族もいらっしゃるため、現状は伝えるが、本人とご家族がうまくコミュニケーションが図れるように支援している。		
32 ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	今までは個々の馴染みの人や場所に関わることはご家族が対応してくれていたが、以前住んでいた若松をドライブしたり、いつも買い物していた相生の商店街に一緒に行ってみたりと個々のニーズに合わせ少しずつ活動できるようになってきた。	○	今後も偏りのないように9名の個々のニーズにも均等に対応していきたい。
33 ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	利用者同士のクレームもあり、時にはけんか・口論もある。それぞれを尊重し、職員が間に入りパイプ役となる努力をしている。全員で行う誕生日会や外出レクリエーションを行い、みんなで楽しむ良さも伝えている。		
34 ○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	医療施設に転院してしまった方のご家族からお手紙をいただいたり、お見舞いに行ったり、こちらの様子をお伝えしたりしており、車イスに座れるくらい元気になったら遊びにくるとご家族も目標をたてて下さっている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
1. 一人ひとりの把握			
35 ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人が思いや意向を発することが難しい方が多いため、少しでも理解できるように、気づいたことや提案をご家族に伝え確認しながら本人の思いを探りだしている。		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
36	<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>一人ひとりの生活歴や家計図をご家族に聴いたり、病院・施設のサマリー等をいただいている。状況をご家族に伝えると、昔のことを思い出して職員に伝えてくださっている。</p>	
37	<p>○暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>介護記録や引継ぎの重要性を伝え、介護記録、伝達は職員全体で行うよう努めているが、まだまだ不十分などところがある。</p>	<p>○</p> <p>今後も引き続き、職員へ記録の重要性を伝えたり、書き方の勉強会を行っていく。</p>
<p>2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</p>			
38	<p>○チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>本人・ご家族の意見を聞きながら介護職員と介護計画を話し合い作成している。必要に応じて主治医や看護師にも意見をもらったり、介護職員の中に作業療法士もいるので意見をもらっている。計画後にもう一度、本人・ご家族に了承を得ている。(本人の意見はききとりにくい努力している。)</p>	
39	<p>○現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>入院等で状態悪化した際(必要に応じて)は細かくケア計画を作成し、評価期間を短くして検討を繰り返しながらその方に添った計画を立てている。</p>	
40	<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>介護記録を職員全員で記入していくように努めているが、まだ内容には不十分さもある。プランの評価のコメントを残してもらうようにしてからモニタリングやアセスメントにとっても役に立っている。</p>	<p>○</p> <p>まだ、内容が不十分だったり、記入漏れがあったりしているので、職員に記録の重要性を理解してもらい、書き方・内容等は勉強会などで充実させていきたいと思う。</p>
<p>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</p>			
41	<p>○事業所の多機能性を活かした支援</p> <p>本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている</p>	<p>要望に応じて可能なかぎり、人員を調整したり、情報提供したり、相談に応じている。</p>	<p>○</p> <p>ご家族との外出も多くなっているため、介助法なども個別に伝えていきたい。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)	
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>				
42	<p>○地域資源との協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している</p>	<p>利用者の趣味活動で作成した押し花の作品を年長者の作品展へ出品する予定。(昨年は入賞した)</p>	○	<p>今後、学校や学童クラブ、市民センター等関係作りをしていきたい。</p>
43	<p>○他のサービスの活用支援</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている</p>	<p>現在は他のサービスは利用していない。</p>	○	<p>今後必要に応じて相談に行く。</p>
44	<p>○地域包括支援センターとの協働</p> <p>本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している</p>	<p>今までに地域包括支援センターとの協働はしたマネジメントの事例はない。</p>	○	<p>今後必要に応じて相談に行く。</p>
45	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>主治医とは定期的に状態を報告・相談(FAX)。その他にも電話で相談したり、受診・往診で対応してもらっている。他のかかりつけには受診の付き添いをして対応している。(ご家族が付き添われた際は内容を知らせてもらっている)</p>	○	<p>主治医が他のかかりつけ医とも連携がとれるよう協力していけるよう関係作りをしていきたいと思う。</p>
46	<p>○認知症の専門医等の受診支援</p> <p>専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>	<p>現在は2名の方が定期的に八幡厚生病院へ受診しており、相談にのってもらっている。</p>		
47	<p>○看護職との協働</p> <p>利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>	<p>ほぼ毎日、訪問看護の看護師が来所し、日々の健康管理や計画への助言をもらっている。</p>		



項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<p>48</p> <p>○早期退院に向けた医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>	<p>入院時にはその方の情報をご家族とともに伝え、配慮してもらうとともに、ご家族と医師と相談し早期の退院を調整してもらっている。</p>	○	<p>退院時には病状の説明や生活の注意点等再発を防げるようにもっと医師やリハビリ、看護師と連携を図りたいと思う。</p>
<p>49</p> <p>○重度化や終末期に向けた方針の共有</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>	<p>まだ、看取りの経験もないため、初期段階の話し合いしか出来ていない。準備段階である。</p>	○	<p>ご家族、職員ともに終末期のあり方について学んでいき、定期的に(必要に応じて)繰り返し話し合い、一人ひとりの方針を確認していく。</p>
<p>50</p> <p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援</p> <p>重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>	<p>上記と同じく、看取りの経験もないため、とりかかりははじめたばかり。</p>	○	<p>ご家族、職員、主治医らと終末期に関して話し合う機会を増やしていく。</p>
<p>51</p> <p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>事例はないが情報提供、カンファレンス参加は可能で、相談に応じることができるよう準備はある。</p>		
<p><b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b></p> <p>1. その人らしい暮らしの支援</p> <p>(1)一人ひとりの尊重</p>			
<p>52</p> <p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>日々努力しているが、介助者の都合の言葉かけ等がみうけられることもある。</p>	○	<p>職員同士で注意しあったり、面談時に自分自身の対応を振り返ってもらうよう促していくことを継続していく。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
53	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>		
54	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	○	<p>希望ができるようにアプローチを工夫していくとともに職員同士が注意しあい介助者の都合をなくしていけるよう努力する。</p>
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
55	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>		
56	<p>○食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
57	<p>○本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
58	<p>○気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
59	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>	○	職員の配置を検討していき、リスク管理が確立した上で、夕方の入浴希望をとりいれていきたい。
60	<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
61	<p>○役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		
62	<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
63	<p>○日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>	○	個々の希望に応じていける機会を増やしていけるよう、職員の配置や業務の改善を検討し、安全に行えるようにしていく。
64	<p>○普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>	○	ご家族が自宅へつれて帰った際に腰を痛めてしまうことがあり、ご家族へ介助方法の伝達・勉強会等も行っていきたい。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
65	<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p> <p>電話は難しい方が多い。手紙は希望あり代筆したり、年賀状やカードづくりをすることもある。</p>		
66	<p>○家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p> <p>交通の便はいいが、マンションの中なので入りにくいと思われる。友人の訪問も時折あるので気軽にきていただけるよう声をかけている。</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
67	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p> <p>職員へは勉強会を行っている。身体拘束に関してはご家族の希望で、夜間ベッド柵を利用している方が3名いらっしゃいます。記録をとり、定期的にご家族への確認と検討をしている。</p>		
68	<p>○鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p> <p>日中は施錠していない。夜間は夜勤者1名のため、必要に応じて玄関のみ簡易施錠することがある。</p>		
69	<p>○利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p> <p>見守りでき、所在等把握する職員を配置している。(フロアで見守りしながらカルテ記載をしたり、台所からもミラーを使って確認している、なるべく利用者に関わりを持ちながら業務を行うようにしている) 離れる際には他の職員に声をかけるようにしている。</p>		
70	<p>○注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p> <p>玄関に季節の飾りを飾っているが、異食のヒヤリが起こった。職員全員に伝達するとともに見守りの際の個々の注意点として把握し対応している。失くさなくても対応できている。</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
71	<p>○事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>	<p>マニュアルを作成しており入所時には説明している、事故後は特に対策案を話し合っている。</p>	<p>○</p> <p>定期的にマニュアルの周知徹底を促す。</p>
72	<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>	<p>3月に救急救命の講習会を職員全員が受講している。急変時はマニュアルを周知徹底するとともに、チャートにしいつでも確認できるようにしている。</p>	
73	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>	<p>マンションの管理業者・ご家族・町内の方・職員と火災や災害時の対応について話し合う機会をもった。年に2回は利用者も交えて避難訓練を消防の協力を得て行っている。</p>	<p>○</p> <p>マンションの管理業者とは話し合いも設けているが、実際近くに住む方たちとは連携が取れていない状況なのでお願いがあがる予定。(マンションの住人の入れ替わりが多いこと)</p>
74	<p>○リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>	<p>その都度問題があるときはご家族と相談しながら対策を講じている。</p>	
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
75	<p>○体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>	<p>医療用の個人ファイルを作り、既往や受診記録、サマリー等の情報を集め、共有できるようにしている。異変があるときはすぐに看護師へ相談し対応している。</p>	
76	<p>○服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>	<p>薬のアルバムを作成し、職員がいつでも調べたり、把握できるようにしている。看護師や医師と用法を相談している。</p>	

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
77	<p>○便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p> <p>下剤を利用している人がほとんど。なるべく下剤を使わずに自然排便できるように、食事に気をつけたり、毎日を動かすことをすすめている。</p>		
78	<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p> <p>口腔ケアは毎食後にお誘いしている。義歯の手入れ、口腔内の観察も密に行っている。ご自分で出来るところはいただき、仕上げは職員がお手伝いしている。</p>		
79	<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p> <p>尿・便の状態を観察しながら、食事、水分をすすめている。女性利用者があまり水分をとりたがらないため、フルーツ、ゼリー、シャーベットなどでも対応している。</p>		
80	<p>○感染症予防</p> <p>感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している(インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等)</p> <p>インフルエンザ等の時期には手洗い方法を伝達し徹底を促している。マニュアルはあるが勉強会が開催できていない。</p>	○	<p>今後、職員の入れ替わっているため、再度勉強会を組み合わせる。</p>
81	<p>○食材の管理</p> <p>食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている</p> <p>食材は新鮮なものがよいため宅配業者を利用し、こまめに発注している。利用者と一緒に広告を見ながら発注している。その他足りないものは散歩がてら利用者と買い物へ出かけている。賞味期限を把握し使用している。調理器具は週に1度以上は消毒できている。</p>		
<p>2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり</p> <p>(1)居心地のよい環境づくり</p>			
82	<p>○安心して出入りできる玄関まわりの工夫</p> <p>利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている</p> <p>マンションの2階なので入り口が分かりにくい。駐車場もあるが交通量も多く停めにくい。</p>	○	<p>目印やお知らせの掲示など工夫をしていきたいと思う。駐車場はマンションの管理者と検討中ですが、事故がないよう誘導したりして配慮している。</p>

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	<p>○居心地のよい共用空間づくり</p> <p>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている</p>		
85	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
86	<p>○換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のおよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめにやっている</p>		
87	<p>○身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
88	<p>○わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
89	<p>○建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

V. サービスの成果に関する項目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
項 目			
90	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼ全ての利用者の
			②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
91	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある
			②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
92	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
96	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
97	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と
			②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない



項 目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
98	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に1回程度
		○	③たまに
			④ほとんどない
99	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている
			②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
100	職員は、生き生きと働いている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
101	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
102	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

週に1回、作業療法士の資格を持った職員が勤務しているので、介助方法、リハビリ方法、福祉用具等のアドバイスをしてもらい、生活の中に残存能力を活かしたリハビリを取り入れていくようにしている。